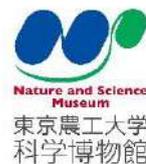


科学博物館ニュース速報



Vol.57 2023/12/22

館長よりメッセージ

➤ 科学博物館長・工学研究院教授 金子 敬一

今年もあっという間に師走を迎えてしまいました。11月に入っても暖かい日が続いていると思ったら急に冷え込んでしまい、短い秋となりました。

さて、科学博物館では、現在、大学博物館連携巡回展「帝国日本と森林—近代東アジアにおける環境保護と資源開発」と企画展西村コンピュータコレクションシリーズ「タイガー計算機展」を開催中です。10月27日（金）から始まった巡回展「帝国日本と森林」は、大日本帝国時代の林業政策における人的、学術的ネットワークの構築や「科学的林業」によって確立された森林保全的な思想の影響に焦点を当てています。この展示内容は、科学研究費補助金の支援を受けて、複数の大学で実施した共同研究に基づいています。本学からは、農学部の竹本太郎講師が参加しており、各研究者の所属大学を巡回する形で展示を実施しています。開催は年末の12月23日（土）、このニュース速報発行日の翌日までですので、まだご覧になっていない方は、お急ぎください。企画展「タイガー計算機展」は、11月11日（土）から開催中です。「西村コンピュータコレクション」は、本学に在職されていた西村恕彦名誉教授（故人）が中心となって、教育等の目的で蒐集したものです。2008年度に情報処理学会から分散コンピュータ博物館に認定されており、「HITAC 10」、「TAC ウィリアムズ管・真空管および関連資料」、「HARP5020 関連資料」といった、情報処理学会より情報処理技術遺産として認められた貴重な資料を含んでいます。今回は、その中から「タイガー計算機」に焦点を当てて展示しています。こちらは、来年6月1日（土）までの開催ですので、お時間のあるときにでもご覧いただくと幸いです。

副館長よりメッセージ

➤ 科学博物館副館長・農学研究院教授 高橋 美貴

「副館長からのメッセージ」というタイトルにいささか沿わないかもしれませんが、数度に分けて少し歴史資料の紹介をさせていただきたいと思います。私は、農工大に所属する数少ない人文社会科学系、しかもおよそ本学にはそぐわない歴史学を専門とする教員です。「なぜ、そんな教員が農工大に？」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、私たち歴史研究者が歴史の復元を試みる過程で、農学的・

目次

- ・館長よりメッセージ／金子敬一……………P.1
- ・副館長よりメッセージ／高橋美貴……………P.1
- ・「タイガー計算機展」開催報告／金子敬一…P.2
- ・「タイガー計算機展」うらばなし／上田裕尋…P.2
- ・巡回展「帝国日本と森林」
／齊藤有里加・三島美佐子(九大総合研究博物館)…P.3
- ・シルク学会開催報告／齊藤有里加……………P.4
- ・シルク学会動態展示・新会員募集／葛西成治…P.4
- ・友の会新会長ご挨拶／佐藤令一……………P.5
- ・農工祭イベント報告／森田雅也(musset)…P.5
- ・サイエンスアゴラ報告／谷口あおい(musset)…P.5
- ・着任のご挨拶・収蔵資料活用報告／小澤豊…P.6
- ・Information……………P.6

工学的な知見を得るために専門家に気軽に相談できたら、と思うことが実は少なくありません。

歴史家が普段どのような研究をしているのか、あまりイメージはないように思いますが、私の専門としている江戸・明治時代を対象とした研究では、各地の古い土蔵などに残された古文書を引っ張り出し、それらを整理のうえ目録を作り、古文書を解読した上で分析をするという、いささか面倒な調査手順を踏んで過去の復元を進めていきます。実は日本では、名主などかつて地域の有力者であったお宅やそれらのお宅から寄贈・寄託を受けた地域の博物館などに、今なお多くの古文書が未整理のまま眠っています。これは世界的に見ても日本のひとつの特徴なのですが、農村の人びとが読み書きできることを前提とした行政システムを江戸時代から採用していたために、このように膨大な古文書が各地に残されることになったのだといわれています。

さて、私は数年前から、岩手県一関市大東町という地域で古文書の整理・分析を仲間と進めています。今後、そのなかで出会った資料をいくつか紹介していつてみたいと思います（次回に続く）。



写真：古文書撮影の様子
(2023年9月)

科学博物館内での開催となった 「第70回日本シルク学会研究発表会」

▶ 学芸員・科学博物館特任助教 齊藤 有里加

令和5年11月17日（金）、18日（土）当館において「第70回日本シルク学会研究発表会」が実施されました。大会実行委員長であり生命工学科中澤靖元先生の下、伊藤克彦先生、秋岡翔太先生のご協力で無事滞りなく学会が実施されました。中澤研究室の学生の皆様のご協力心より御礼申し上げます。日本シルク学会賞に前副館長横山岳先生が受賞され、「カイコの効率的育成技術の開発と蚕糸業の社会科学的解析」と題して記念講演を賜りました。また、70周年の記念として、岡谷蚕糸博物館館長高林千幸氏、元大日本蚕糸会代田丈志氏より貴重なご講演を賜りました。70周年の節目の大会として大変光栄であり、貴重なお話を聞かせていただく機会となりました。二日目には博物館見学が実施され、繊維機械の動態展示を見ていただきました。繊維技術研究会の皆様には心より御礼申し上げます。

当館からは3件の発表を行うことができました。いずれも当館のコレクションと縁が深く、シルクを通じた研究教育活動を知っていただく機会となりました。長年の蓄積ある蚕糸技術の新たな試み、発展にこれからも大いに期待してまいります。

●「博物館における自動繰糸機の動態展示による蚕糸技術の公開と継承」

（農工大博物館）齊藤有里加・横山岳・金子敬一

●「博物館支援活動による地域に根差したシルク繊維についてのサイエンスコミュニケーション活動」

（農工大博物館 musset）宇野清香・丸山遥香・（農工大博物館）齊藤有里加

●「米国パターソン博物館における生糸商標の再発見」

（農工大博物館 繊維技術研究会）上岡和江

ポスター会場
の様子



博物館支援学生団体
「musset」所属学生による
ポスターセッション

シルク学会動態展示報告・ 繊維技術研究会新会員募集

▶ 繊維技術研究会会長 葛西 成治

自動繰糸機の動態展示では、シルクご専門の方々に向かってシルクに関わる自動繰糸機をどう解説するのか、まさに釈迦に説法で、いささか緊張しました。初めて動態をご覧になる方や、午前中に一度、下見に来られた方が次々に質問され、またその内容もシルク関連だけでなくメカニカル面を含め多方面に亘っており、一般の見学者とは違うな、と感じました。

ジェット織機の展示では、見学された多くの方が、水や空気の噴流に載せてよこ糸を運ぶ様子を初めてご覧になられたようで、一様に感心し、納得されたような印象を受けました。

2階のミシンのコーナーでは、ミシンの環縫いがルーパーの作用で、また本縫いは針に通した上糸とボビンに巻かれた下糸とが釜の回転で縫い目を作る仕組みを、ミシンの奥下のルーパー部分をのぞき込んだり、縫い目の形状や機構の違いの説明に熱心に耳を傾けていただきました。

そんな姿に、脈々と受け継がれてきた技術、仕組みや知恵、その精神を次の新しい近代技術として残していきたいという、見学者の方々の情熱を感じさせていただく瞬間でした。



繊維技術研究会 会員募集中

繊維技術研究会は繊維に関わる技術の伝承やものづくり、調査研究を通じて科学博物館活動を支援しているボランティア団体です。

繊維に関してご自身の知見やキャリアを活かした活動にご関心のある会員を募集中です。繊維とか機械などの専門的な知識をお持ちでなくても構いません。毎月第3火曜日に例会を開催しています。また概ね毎火曜日には繊維機械の動態展示・解説活動なども行っています。

ご関心のある方は第3火曜日に科学博物館内繊維技術研究会をお訪ねください。

友の会会長就任ご挨拶

➤ 博物館友の会会長・東京農工大学名誉教授 佐藤 令一

国眼孝雄先生の後任として9月から科学博物館友の会会長を拝命した本学名誉教授の佐藤令一です。専門は、モデル昆虫としてのカイコを使った「昆虫と微生物間、昆虫と植物間の相互作用の分子機構」です。「絹の研究」のように当博物館に密接に関わるテーマではありませんが、カイコ繋がりのご縁で会長を拝命しました。工芸に対してはまったくの素人ですが、芸術は大好きで、昔少し油絵をたしなんでいたことがあります。しかし最近では、直径30cm近い花をつける *Selenicereus* 属の森林性サボテン、「夜の女王」や「夜の王女」をベランダでいかに立派に開花させるかといった「芸」にはまっています。最近顔を出した役員会や、機関誌「Textile」の写真、友の会サークル作品展のポスターなどで、友の会にはサークルが10もあり、それぞれのサークルがどれほど高い技術で魅力的な作品に挑戦しているかが分かり始めたところです。2月3日から開催が予定されている今年度の友の会サークル作品展も素晴らしいものになりそうで、楽しみです。皆様も是非ご来場ください。



2月開催の「友の会サークル作品展」ポスターを前に笑顔の佐藤会長。よろしくお願いたします！

musset 農工祭イベント報告

➤ musset・工学部応用化学科3年 森田 雅也

私たち musset は、11月10~12日に府中キャンパスで開催された農学部学祭に出展しました。農学部学祭では「ミュゼット実験教室～光と色の不思議～」という、偏光板の特性について学ぶワークショップを行いました。当日は大変盛況で、小学校高学年の子どもたちから大人の方まで広い年代の方に楽しんで頂きました。特に偏光板で作った万華鏡は多くのお客さんに気に入って頂けたようです。1日目には工学院大学付属高校・中学校サイエンス部の皆さんが来場しました。たくさんの質問をしていただき、光について関心を持っていただけたようで嬉しいです。その他にも進路に悩む高校1年生や農工大志望の高校生3年生など、学祭ならではの来場者の方々と交流を行いました。私たちの活動を通じて、農工大に興味を持っていただけたようであれば光栄です。



musset サイエンスアゴラ報告

➤ musset・工学府産業技術専攻 修士2年 谷口 あおい

11月18日(土)、19日(日)にお台場にあるテレコムセンターで開催されたサイエンスアゴラ2023に出展してきました。今回は「跳ねる？伸びる？ゴムのひみつ」というタイトルで、私が普段研究している内容に絡めて企画を行いました。

跳ねるゴムと跳ねないゴムを触り比べたり、伸ばした風船を温めて動かしたりと、ゴムが持つ性質を体験しながら学んでいただきました。当日は延べ200人以上のお客様に参加していただき、子どもから大人まで楽しんでいただくことができました。質問に答えていく中で私自身新たに気付かされることも多く、良い刺激を沢山もらいました。また普段と異なり1対1での対応となり、慣れないながらも皆楽しそうにコミュニケーションを取っていてうれしく思いました。

今回準備から当日まで後輩に沢山助けてもらいながら、企画を成功させることができました。私が参加する企画は最後となりましたが、今後も musset の活動を応援しています。



着任のご挨拶

▶ 小金井地区事務部総務室科学博物館係 係長 小澤 豊

令和5年12月1日付で、科学博物館の事務担当に着任しました。私事、少し（大分？）古い話になりますが、本学へ採用された頃、科学博物館は、まだ「工学部附属繊維博物館」で、当時は、庶務部庶務課専門職員付として本学の「学報」の記事作成や写真撮影等を担当していました。

その頃、行政文書（現在は法人文書）がB5サイズからA4サイズに改正され、学報もB5版からA4版にサイズアップしました。上司から拡大された紙面の活用を考えるように指示され、思いついたのが「毎号、繊維博物館の収蔵品を紹介」していただくこと。

工学部附属繊維博物館に在職されていた並木 覚先生にご相談し、最初にご紹介いただいたのは「初代広重「かいこやしないの図」」（学報第348号平成6年7月15日発行）。次号は「ウィリアム・リー編機」（第349号平成6年8月15日発行）。平成6年9月号は「浮世絵「上州富岡製糸場之図」」と続きました（ご興味ある方は、図書館に保管される学報をご覧ください）。原稿作成のご都合等から、年度途中で隔月でのご紹介へ変更（「農工大の樹」農学部 福嶋 司先生と交互）になりましたが、数年続けてご紹介いただけたと記憶しています。

本学は創基150周年で、「科学博物館」も記念事業が実施されます。微力ながら企画実施をお手伝いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

顔写真の代わりに、学報第348号表紙4の写真を掲載します。



収蔵資料活用・取材報告

1. 資料貸出3件

- (1) NHK 高校講座日本史第26回『開国と開港』 「蚕家織婦之図」画像データ貸与
- (2) SAPIX 小学部塾内教材（2024年度版） 「昔の機織機」写真貸与
- (3) 早稲田アカデミー中3関西過去問テキスト 「かいこやしないの図3枚綴」画像貸与

2. 取材及び掲載2件

- (1) 日本シルク学会第70回研究発表会図版「繭標本」掲載
- (2) 書籍『教養としての猫』（西東社刊）「蚕やしない草」画像掲載

◇Information◇

コロナ禍はまだ警戒を解くまでに至っておりませんが、今年度はいまのところ、予定していた企画展およびイベントを滞りなく進めることができています。これも来館者の皆様が従来に引き続き個々人で見学マナーを守ってくださる等、日頃のご協力があったことです。館教職員一同、改めて御礼申し上げます。

今年度後期は10月から巡回展「帝国日本と森林」、11月から企画展「西村コンピュータコレクション タイガー計算機」と展示が続いていますが、年明けて2024年2月3日(土)～10日(土)には「東京農工大学科学博物館友の会 サークル作品展」を開催します。昨年に引き続き、友の会の皆さんの作品をご覧いただき、手仕事の技について語り合う場となるよう準備を進めてまいります。2024年もぜひ東京農工大学科学博物館へご来館ください。よろしくお願い申し上げます。



「科学博物館ニュース速報」第57号

発行日：2023年12月22日

編集：科学博物館ニュース速報編集委員会

発行：東京農工大学科学博物館

連絡先：kahaku@cc.tuat.ac.jp

042-388-7163